

国税不服審査請求の提出

まず国家の暴力に対し、個人が毅然と闘う決意に、敬服します。一般的に個人が審査請求に至ること事態、そこまです。正に非人道的な扱いを行なった証明なのです。異議申し立てしても当然に承伏できないのです。

滞納処分を含め、そもそも異常な実態、慄然とする現場実態があるのです。

絶大な力、国家権力を有しているにも係わらず余裕がない

い現場は、組織の凋落を指摘せざるを得ない。すなわち質は、人の問題です。

直言すれば劣化現象はトップの責任でもある。

昨年7月28日（浅の川水害日）、局署合同で無予告現況調査が行われました。20年9月4日の不条理な修正申告指導がされ、関与の依頼を受け

即、該当署に税務代理権限委任状を提出しました。

翌日強権的な税務執行を、担当者面接し確認した。当月末に経過報告書を署長に郵送しています。

不条理に対して、戦う山崎

豊子の「沈まぬ太陽」は小説ですが、これは進行形の現実

です。



(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
 2009年11月10日 (火) N074
地域から明るい未来を作ろう

京都大学名誉教授の今西錦司さんが2009年6月15日、90歳の生涯を閉じた。

「学問は人からではなく、自然から習うもの」

ダーウィンの進化論を知らないものはいない。しかし、今西学説と言われ「棲み分け理論」を知っている人は少ない。ダー

ウィンの進化論は、弱肉強食の論理である。いつも競争し、勝ったものだけが生き残り進化してきたという。エコノミック

アニマルと呼ばれた日本人に、最も影響を与えた理論でもある。このダー

ウィンの進化論と真向から対立する理論が、実は「棲み分け理論」なのである。

卒業後の無給講師時代、趣味である山や谷を歩きながら水生昆虫の観察を行った。溪流の石ころを一つ一つ転がしながら、カゲロウの幼虫の分化を調べ、それが画期的な

「棲み分け理論」の発見を生んだ。「棲み分け理論」とはどんなものか、それがなぜ画期的なのか。簡単に説明しよう。

溪流の流れを想像していただきたい。兩岸は流れが緩く、中心部は流れが早い。そうした溪流の一断面に様々な形態

の川虫が住んでいる。流れの緩いところには砂が溜まっている。その砂の中には、潜るのに適した（尖った丈夫な頭）形態をも

つ埋没型の川虫が住んでいる。流れの中では、糸のように細い足と泳ぎやすい

水の流れを想像していただきたい。兩岸は流れが緩く、中心部は流れが早い。そうした溪流の一断面に様々な形態の川虫が住んでいる。流れの緩いところには砂が溜まっている。その砂の中には、潜るのに適した（尖った丈夫な頭）形態をもつ埋没型の川虫が住んでいる。流れの中では、糸のように細い足と泳ぎやすい

共生の世界

は落ち葉を食べて成長する。同じ場所で生きていくためには、競争することを避け、それぞれの住む場所を「棲み分け」ながら、その環境に適合するために外部形態を進化させてきたという。

これを人間の社会に、当てはめると、ダーウィンの進化論は「弱肉強食の世界」であり、今西理論は「共生の世界」なのである。ここが、決定的に違う点である。

21世紀は「共生の時代」とするならば、人間の心の中にはある「弱肉強食」の論理は、捨てるべきときである。それに代わって、自然から教えられた「棲み分け」の論理、「共存、共生の論理」の視点に立脚すべきであると思う。

この「棲み分け理論」は、大自然を愛する人たちが、自然とどう共生すべきか、といった疑問を解決してくれる日本人の画期的な理論でもある。

